

次世代研究部会 協調学習技術の標準化支援WG 資料(2002.10.10)

日本ユニシス株式会社

伊藤 英毅

Hidetake.Itoh@unisys.co.jp

1. ワーキンググループの活動状況

標準化支援WGの活動

ISO/SC36に提案される標準規格案の評価

関連標準規格の調査

これまでのWGの活動

普及WGとの合同による立ち上げ準備

2002年7月4日 有志メンバにより、今後の活動方針やWGへの期待を議論(第1回WG)

2002年8月22日 有志メンバにより、今後の具体的な活動を検討(第2回WG)

2 . ISO標準化活動の状況

ISO IEC/JTC1 SC36/WG2の状況

2002.9.15 ~ 22に米国カンサスでISO国際会議が開催
日本がプロジェクトエディタを務める二つの標準規格案については以下の状況

Collaborative Workplace (CW)

Working Draftを提案。各国との議論
フランスや米国からコメント

10月中にコメント反映し、11月5までにCD投票に 次項参照

Learner to Learner Interaction Schema (L2L)

標準化指針を提案。各国との議論
次回国際会議にてWorking Draftを提案



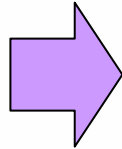
補足:L2Lの標準規格案

ISO標準作成までの流れ



予備段階

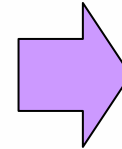
PWI(Preliminary Work Item)
WGで標準化する項目を検討



提案段階

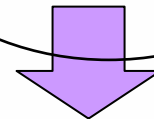
NP(New work item proposal)
WGで標準化の適用範囲などを検討
NP投票が実施される

NPが可決
WGが発足



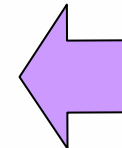
作成段階

WD (Working Draft)を作成、検討



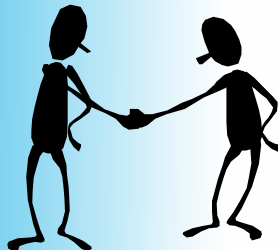
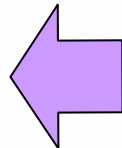
委員会段階

CD(Committee draft)
必要に応じてTCにて意見を審議
CD投票が実施される



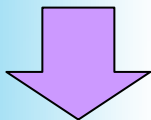
照会段階

DIS(Draft International Standard)
DISの回付
5ヶ月投票

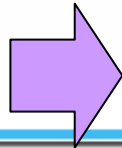


承認段階

FDIS(Final draft International Standard)
FDISの登録
2ヶ月投票



校正、印刷



標準できあがり

3. ワーキンググループの活動

ISO標準規格の評価

目的

ISO IEC/JTC1 SC36/WG2 (以降、SC36/WG2) で日本がプロジェクトエディタを務める二つの標準規格の提案内容を評価し、フィードバックする

評価の主な観点

仕様としての必要十分性

協調学習全体から見た二つの標準規格案の範囲、役割の妥当性

標準化によって期待される効果

プラットフォーム開発者

ツール開発者

利用者(指導者、学習者)

<http://www.ai.is.uec.ac.jp/ipa/ipa3/index.htm>

分散協調学習基盤成果公開ページ

[概要内容紹介](#)
[ダウンロード](#)
[協調学習体験](#)
[トップページ](#)

本プロジェクトでは、協調学習を支援する基盤となる協調作業フレームワークと協調学習アプリケーション、基盤と協調学習アプリケーションの間の通信ライブラリを開発しました。

※本ソフトウェアには著作権が認められ、無断で複製はできません。

Copyright © 分散協調学習基盤構築推進グループ
 電気通信大学大学院情報システム学専攻
 デジタル社会基盤
 研究開発センター
 ネットワークシステム工学研究室

☐ 作成
☐ UEC 様

2002/10/10

Consortium

4 . ISO標準規格の評価 仕様としての必要十分性を評価

以下の観点から評価する

1. 提案内容が、論理的に整合性があり、多様な協調学習を支援するための汎用的なITの標準規格であるか
利用者やシステム開発者の立場から調査した協調学習におけるITの要件に基づき評価する
2. 提案内容に基づき実装が可能であるか
既存の協調学習システムやプロトタイプなどを利用し提案内容に基づく実装可能性を評価
3. 提案内容で目的としている効果(ex. データ連携やツール互換性)が達成できるか
既存の協調学習システムやプロトタイプ開発などを利用し提案内容の目的達成度を評価

5 . ISO標準規格の評価

仕様としての必要十分性を評価(1)

1. 標準規格の汎用性を評価する

協調学習の形態や環境から独立した仕様

他の学習形態(ex.個人学習や教室型学習)において管理される情報と協調学習で管理される情報の一貫性

準備作業

提案内容の調査

WGメンバーへのアンケート / 個別ヒアリング

本アンケートやヒアリングは他の評価にも活用する

協調学習の目的、動機付け

協調学習の適用や形態について

協調学習で活用するツールについて

評価作業

提案内容と、アンケート / ヒアリングのまとめ

6 . ISO標準規格の評価

仕様としての必要十分性を評価(2)

2. 標準規格の実装可能性を評価する

提案内容にもとづくデータ構造やそれを利用するソフトウェアの実現性

準備作業

提案内容を調査し、標準規格によって実現する対象(論理モデル、データ構造、API、プロトコルなど)を明らかにする

評価作業

机上調査

既存の協調学習システムの標準規格対応や、プロトタイプツールなどによる実装

既存の協調学習システムの利用などは、普及WGと協力して進める予定

7. ISO標準規格の評価

仕様としての必要十分性を評価(3)

3. 標準化の効果を評価する

標準化による効果(データ連携やツール互換性)
の評価

準備作業

提案内容を調査し、標準化の目的を明らかにする

評価作業

既存の協調学習システムの標準規格対応や、プロトタイプツールによる実装

既存の協調学習システムを利用した評価(普及WGとの連携)

8 . ISO標準規格の評価

協調学習全体から見たCW、L2Lの妥当性

評価の目的

協調学習を支援する技術は多種多様であり、CWやL2Lはその一部である。協調学習を支援する他の技術とCW、L2Lの関係を明らかにし二つ標準規格案の範囲や役割について評価する

準備作業

NP、提案内容から、位置付けや役割を調査

評価作業

アンケート / ヒアリングによる協調学習の整理 (形態、支援技術など)

他の要素との関連からCW、L2Lの位置付け、役割を評価

9 . ISO標準規格の評価 標準化によって期待される効果

評価の目的

標準化活動の意義と、協調学習システムの普及への標準化の役割を明らかにする

準備作業

NP、提案内容から、標準化の目的(期待される効果)を調査

評価作業

協調学習システム実践例の報告

アンケート / ヒアリングをもとにメンバーによる議論